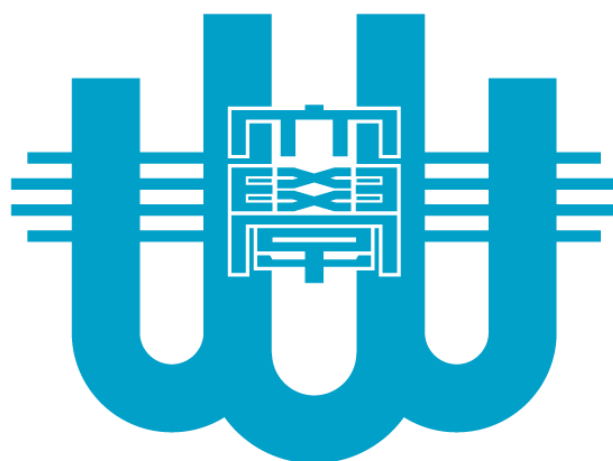


2019 年度東京純心大学自己点検・評価に関する  
第三者委員会報告書



2020 年 6 月  
東京純心大学

## はじめに

2019年度の「東京純心大学自己点検評価書」に関する第三者評価結果を取り纏めた。最初に、外部評価委員の先生方には、ご多忙にもかかわらず資料にお目通しいただき、また本学で開催した第三者評価委員会へのご出席を賜り、貴重なご意見等を頂戴し、心より感謝申し上げます。それらの一つひとつをしっかりと受け止め、本学の発展に向けて着実に進みたい。

本学は、2018（平成30）年度から認証評価機関の一つである財団法人日本高等教育評価機構による機関別認証評価とは別に、外部有識者3名（大学教授、病院関係者）からなる第三者評価委員による独自の外部評価を導入した。

これは、大学全体における自己点検・評価の客観性及び妥当性を担保するとともに、諸活動の改善・改革を行う実質的な取組みの一つである。また、近年の私学を取り巻く環境の変化への対応は、自学のみでは非常に厳しく、見識ある外部有識者からの意見を頂戴し、変化に柔軟に対応するよう舵を切っていく。

2020年3月

東京純心大学 自己点検・評価委員会  
委員長 増田 光

## I. 第三者評価委員会実施概要

実施日時：2020年1月25日（土）13：00～15：00

会 場：東京純心大学 法人棟会議室

当日スケジュール

時間	項目	概要
13：00～13：05	開会挨拶	学長
13：05～13：10	委員紹介、出席者紹介 2019年度自己点検評価書について	概要説明
13：10～13：25	基準1：本学の使命・目的等	概要説明と質疑応答
13：25～13：40	基準2：学生	概要説明と質疑応答
13：40～13：55	基準3：教育課程	概要説明と質疑応答
13：55～14：10	基準4：教員・職員	概要説明と質疑応答
14：10～14：25	基準5：経営・管理と財務	概要説明と質疑応答
14：25～14：40	基準6：内部質保証	概要説明と質疑応答
14：40～14：50	独自基準	概要説明と質疑応答
14：50～15：00	評価委員による総評	
15：00	閉会挨拶	副学長

## II. 第三者評価委員による評価

### (1) 総括

東京純心大学は、基本方針に基づき熱心に取り組む姿勢が感じられる。今後もう一工夫あれば更に良い方向に発展していくものと評価する。

### (2) 参考意見等

- ・ 学生数に関係して、東京純心女子高等学校と高大接続というような形で何か連携しているものはあるか。（基準1）
- ・ 現代文化学部の充足率が年々下がってきていることについて何か背景があるのか。（基準2）
- ・ 交通の便があまり良くないので、見方を変えて、もっと広域に広報活動を行ってもよいのではないか（基準2）
- ・ 学修成果の点検・評価の項目はもう少し（最低5ページから6ページ）記載した方が良い。  
(基準3)
- ・ 学修成果ということで資格取得率を記載した方が良い（基準3）
- ・ 研究型FDは実施しているか。（基準4）
- ・ 収支のところで赤字が増えていることについて学園全体での関係か。  
大学単体ではどうか。また改善策として何か講じているか。（基準5）
- ・ 教員が授業アンケートを受けて、授業をこのように改善します等、学生にも伝えて毎年共有されているか。また、ホームページ等、外に見える形で公開しているか（基準6）

- ・センターの取り組みを充実させる効果、例えば入学者数に影響がある、というエビデンスはあるか。(独自基準)

### (3) 各委員からの総評

#### A委員

すでに行っていること、またいろいろこれからしようとしていることなど、来年評価書にも盛り込まれるだろうと思う。認証評価は、一つひとつが充実して質が保証されるということだと思う。学生をどのように獲得していくか、というところは社会情勢等を考慮すれば、どこの大学も厳しいところだと思う。定員を見直すこともあるのかもしれないが、熱心に努力している姿勢が伝わってきたので、今後良い方向に進むと思う。

#### B委員

病院を所有している法人として感じていることを申し上げたことが、少しでも役に立てばと思う。事務局も専門性が高いと感じた。先生方もプロで、先は明るいと感じる。あとは学生生徒を増やすことであると思う。創立の精神、キリスト教の人、そうでない人も、現場で今困っている弱い立場にある人と、悲しみと喜びとすべて一緒に共有して彼らに仕えていく姿勢を守っていけば、必ず発展すると感じている。

#### C委員

全体的に基本方針に基づいて地道に取り組んでいる様子が伺える。今回自分は3回目の評価委員であるが、毎回それぞれ改善するという姿勢が見受けられる。

学生の確保については、途中で人件費の節約等があるが、まずは学生の確保にどのように取り組んでいくか、ということが優先されなければならない。どうしてもという状況の時に予算の問題等になる。したがって削減というのは先行しないようにご検討いただくというのが大事であると思う。以前は女子大であったので、男子高校生をどう取り込むかということを検討してもいいのかなと思う。

本学には校友会があり、予算に載らない額を学生支援に回している。奨学金制度も独自に行っている。また、災害時に見舞金を出すなどもしている。先ほど話のあった住居費の補助等にこういったものが使えるのではないかと。そのあたりももう少し工夫する余地があるのではないかとと思う。

オープンキャンパスに参加して受験する人の割合は、10パーセント程度であるとの調査もある。何となく参加しているようである。各種センターの取り組みと受験者数との繋がりを工夫することなど考えられるが、こういった調査結果もあるので、高校生だけでなくその他のところで働きかけることをすると良いのではないかと。今後もいろいろ工夫して発展されることを願っている。

以上